



Japanese Deaf Sports Federation (JDSF)
S.K. Building 130 Yamabuki-cho Shinjuku-ku Tokyo 162-0801, Japan
Tel: +81-3-3268-8847 Fax: +81-3-3267-3445
E-mail: jdsc@jfd.or.jp URL: <https://www.jfd.or.jp/>

May 11, 2022

組織委員会 CEO, Richard Douglas Ewald 様
ICSD 会長, Gustavo de Araujo Perazzolo 様

現在、日本選手団内のコロナ感染者は以下のとおりである。

××× (省略)
××× (省略)
××× (省略)
××× (省略)
××× (省略)
××× (省略)
××× (省略)
××× (省略)
××× (省略)
××× (省略)
××× (省略)
××× (省略)

コロナをブラジル市民またデフリンピック参加国の選手、日本選手団内に広げないよう、感染者の濃厚接触者も自室隔離を行っている。これは日本のためではなく、すべての参加者と市民のためである。

以下について、要望また抗議をする。

1. ICSD 及び組織委員会がデフリンピック大会のコロナ対策の責務を果たしていないことに抗議する

オリンピック、パラリンピックまた国際スポーツ大会では、組織委員会より新型コロナウイルス感染予防対策ガイドラインが出され、各国の選手団はすべてそれに従い行動をする。

しかし、ブラジルデフリンピックでは、ガイドラインが出されていない。またデフリンピックスクエアや各競技会場では、選手たちがマスクを外し、また必要な消毒がなされていない。特に水泳会場やバドミントン会場は密閉スペースになりやすいのに全くコ

ロナ対策がなされていない。

新型コロナウイルスが蔓延していることは、棄権者が日本だけではなく、各国の選手にも出ていることから明らかである。

ICSDは組織委員会にコロナ対策について指導する責任があり、それを果たしていない。また組織委員会は何らかの対策も行っていないことに抗議する。

2. ICSD及び組織委員会が参加者に対し、PCR検査を行わないことに抗議する。

北京冬季オリンピックでは、新型コロナウイルス感染予防策で、入国時や大会期間に毎日PCR検査を選手へ行った。

ブラジルデフリンピックでは、ポルトアレグレ空港に到着時に、PCR検査を全員に行うと団長会議で説明があったのに、実際は行っていない。また、選手へ毎日のPCR検査を行っていない。もし、選手が感染の疑いがあった場合は、スクエアで自費で検査を受けなければならない。

ICSD及び組織委員会は選手の命を守る責務を果たしていないことに抗議する。

3. 日本チームはコロナ感染拡大を防ぐために全競技を棄権すると決定した。日本チームに対する罰金の免除を要望する

選手やチームは棄権をすると罰金を徴収される、また自費で受ける費用がないために、PCR検査を受けなかったり、コロナ感染者への差別を受けることを恐れ、無理に試合出場することでさらに新型コロナウイルスは選手たちに広がる。

これでは、ブラジルデフリンピックは素晴らしい大会ではなく、パンデミック、恐怖の大会として記憶に残る大会になるだろう。

日本チームは参加選手たちや市民の命を守り、デフリンピックの誇りを保つため、5月12日以降は、全競技への出場を棄権することを決定した。

ここに日本チームのPCR検査の結果及びドクターの証明を添えて出す。日本チームが全競技を棄権することについて罰金を免除することを求める。

4. コロナを理由に差別や排除を行わないよう、ICSDが指導することを求める

本日、日本男子バレーチームが出場した際、対戦国のイタリアから突然、陰性証明の提出を求められた。日本はコロナ感染の疑いがある時点で隔離を行い、その時点で出場は認めずPCR検査を行う。その結果、陽性であったら、診断書を添えてICSDに提出し報告をしている。私たちは公明正大に行動し、取り組んでいる。

陰性証明の提出を求めることや日本チームのみ求めるのは問題であり、差別である。陰性証明の提出が必要なら、すべてのチームに求めるべきである。イタリアは日本に謝罪し、私たちはそれを受け入れた。

スポーツの場は、「人種差別」「政治」等を理由した様々な排除や差別は許されな

い。

私たちは ICSD がデフリンピック参加者や各国ろう者スポーツ委員会に緊急に差別や排除を行わないよう声明を出すことを求める。

敬具

Yasunori Shimamoto

日本選手団団長
全日本ろうあ連盟スポーツ委員会事務局長
嶋本 恭規